

## 事業事前評価表

### 国際協力機構アフリカ部アフリカ第四課

#### 1. 基本情報

国名：コートジボワール共和国（コートジボワール）

案件名：第二次日本・コートジボワール友好交差点改善計画

Projet d'Aménagement de l'échangeur de l'amitié ivoiro-japonaise  
(phase 2)

G/A 締結日：2015年7月10日

#### 2. 事業の背景と必要性

(1) アビジャンにおける都市交通セクターの現状・課題及び本事業の位置付け

コートジボワール共和国の経済の中心である大アビジャン圏は、西アフリカ経済通貨同盟域内の経済活動のハブであり、最大の貨物取扱い規模を誇るアビジャン港を擁している。幹線道路・鉄道・港湾・空港など地域全体の運輸交通の要衝でもあり、ブルキナファソやマリ共和国などの内陸諸国に向けた国際回廊の起点としての役割も担っている。大アビジャン圏は、象牙の奇跡と呼ばれた1970年代の経済成長期以降、地域全体を支える経済の中心的役割を担い、地方部や周辺国からの人口が大量に流入し、大都市圏を形成した。1990年代半ば以降、約15年に渡る政治的混乱と内戦による国家分断を経験したが、危機が終息した2012年以降は、急速な経済復興により再び年率8~9%の成長を続けるに至っている。

同国内の道路インフラは、1970年代以降、旺盛な外国投資に支えられて整備が進められたが、その後の混乱・内戦により、新規の道路建設や維持管理は停滞した。その間にも進行した都市化に加え、続く危機後の高度経済成長を背景に、大アビジャン圏全体で交通量はその容量を上回り、市内随所で慢性的に渋滞が発生している。かかる背景の下、国際協力機構（JICA）は同国の復興と経済活動再生に向けた支援のため、開発計画調査型技術協力「大アビジャン圏都市整備計画策定プロジェクト」（2013年~2015年）を実施し、同計画が、大アビジャン圏開発にかかる同国の基本計画として採用されている。同計画の優先事業は「第二次国家開発計画（2016年~2020年）」でも取り上げられている。

「第二次日本・コートジボワール友好交差点改善計画」（以下、「本事業」という。）を対象とする交差点（信号処理式ラウンドアバウト型）は、大アビジャン圏中心部とアビジャン港及び空港とを連結する交通の要衝に位置し、同交差点の渋滞は、円滑な人の移動や物流の大きな阻害要因となってきた。このため、同交差点の改善は、大アビジャン圏都市整備計画の最優先事業とされており、

第二次国家開発計画を具現化する事業にも位置付けられている。

このため日本政府は、同交差点において、2015年度無償資金協力「日本・コートジボワール友好交差点改善計画」（以下、「第一次計画」という。）による、1層目跨道橋（一方向）の整備等を通じた交差点立体化支援を実施中（2019年10月完工予定）であるが、今後も急速に増大が見込まれる交通需要に中期的に对应していくため、本事業により、立体交差の双方向化による交通容量の更なる増強が必要とされている。

（2）都市交通セクターに対する我が国及び JICA の協力方針等と本事業の位置付け

対コートジボワール共和国 JICA 国別分析ペーパー（2016年3月）において「成長インフラ強化」が重点課題であると分析されており、対コートジボワール共和国国別開発協力方針（2014年4月）における重点目標としても「経済成長の加速化」が定められ、大アビジャン圏の都市インフラ整備を支援する方針としており、本事業はこれら分析、方針に合致する。また、本事業は、TICAD VI ナイロビ宣言の「ピラー1:経済の多角化・産業化を通じた経済構造改革の促進」の「質の高いインフラ」に該当するとともに、TICAD V 支援策として我が国が公約に掲げている「5大成長回廊整備」及び「戦略的マスタープラン策定」の一つである「西アフリカ成長リング回廊」の起終点の整備に係る協力でもあり、同地域の基幹交通インフラ整備は、地域の総合広域開発にも貢献する。

（3）他の援助機関の対応

アフリカ開発銀行他：アビジャン市内の第三橋のコンセッション方式による建設事業（2014年12月完工）を支援。

米国（Millennium Challenge Corporation）：本事業と南側1km先に接続するヴリディ橋を無償で整備する計画があり、本事業と合わせ、市内中心部と南部工業地帯を縦貫する主要ルートが整備される見込み。

### 3. 事業概要

（1）事業目的

本事業は、アビジャン市において、日本・コートジボワール友好交差点の第二次計画による同交差点立体交差の双方向化を通じて交通容量の更なる増強を行うことにより、市中心部と郊外とを往来する交通の円滑化を図り、もってコートジボワールの経済成長の加速化に寄与するものである。

（2）プロジェクトサイト／対象地域名

アビジャン市（人口約366万人）

（3）事業内容

1）土木工事の内容：2層目跨道橋の建設（コンクリートPC橋、全長約650m）

2) コンサルティング・サービス／ソフトコンポーネント：詳細設計、入札補助、施工監理

(4) 総事業費

5,256 百万円（概算協力額（日本側）：4,956 百万円、コートジボワール国側：300 百万円）

(5) 事業実施期間

2018 年 3 月～2022 年 11 月を予定（計 57 カ月）。2 層目跨道橋の供用開始時（2021 年 11 月を予定）をもって事業完成とする。

(6) 事業実施体制

1) 事業実施機関：道路管理公社（L'Agence de Gestion des Routes : AGEROUTE）

2) 運営・維持管理機関：道路管理公社（L'Agence de Gestion des Routes : AGEROUTE）

(7) 他事業、他援助機関等との連携・役割分担

1) 我が国の援助活動

日本・コートジボワール友好交差点において、2015 年度無償資金協力「日本・コートジボワール友好交差点改善計画」（以下、「第一次計画」という。）による、1 層目跨道橋（一方向）の整備等を通じた交差点立体化支援を実施中である。今後も急速に増大が見込まれる交通需要に中期的に对应していくため、本事業により、立体交差の双方向化による交通容量の更なる増強を図る。

2) 他援助機関等の援助活動

特になし

(8) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

1) 環境社会配慮

① カテゴリ分類：B

② カテゴリ分類の根拠：本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドラン」（2010 年 4 月公布）に掲げる道路セクターのうち大規模なものに該当せず、環境への望ましくない影響は重大でないと判断され、かつ、同ガイドラインに掲げる影響を及ぼしやすい特性及び影響を受けやすい地域に該当しないため。

③ 環境許認可：本事業対象の環境影響評価（ESIA）補足報告書は 2018 年 6 月に環境庁に提出され、2018 年 8 月には承認される見込み。

④ 汚染対策：工事中は、工事車両や建設機械による排気ガス、粉塵、騒音について、適切な状態の建設機材の使用及び作業時間の制約等の対策がとられるため、影響は限定的となる見込み。供用後、交通量の増加に伴い、大気質や騒音への負の影響が見込まれるが、交通規制等の制御を

計画、実施し、軽減を図る見込み。

⑤ 自然環境面：事業対象地域は国立公園等の影響を受けやすい地域またはその周辺に該当せず、自然環境への望ましくない影響は最小限であると想定される。

⑥ 社会環境面：本事業で対象とする交差点は既に第一次計画が実施中であり、新たな用地取得、住民移転は伴わない。本事業実施にかかる住民からの反対意見は確認されていない。

⑦ その他・モニタリング：本事業は、AGEROUTE が、工事中及び供与時の大気質、騒音等についてモニタリングする。

2) 横断的事項：特になし

3) ジェンダー分類：ジェンダー対象外

<分類理由>事業にジェンダー配慮等に係る内容が含まれない。

(9) その他特記事項：特になし

#### 4. 事業効果

(1) 定量的効果

1) アウトカム（運用・効果指標）

指標名	基準値 (2017年実績値)	目標値(2025年) 【事業完成3年後】
交差点流入交通量(乗用車換算 pcu/日)	138,000	189,000
走行時間(分)		
ドゴール橋→マルコリ交差点 AM ピーク	17	8
ドゴール橋→マルコリ交差点 PM ピーク	12	7
ボワニ橋→マルコリ交差点 AM ピーク	14	10
ボワニ橋→マルコリ交差点 PM ピーク	12	8

(2) 定性的効果

旅客輸送や物流の定時性確保、交通の利便性の向上、交差点の安全性の向上

#### 5. 前提条件・外部条件

(1) 前提条件

工事着工前までに、地下埋設物等が速やかに移設される。

(2) 外部条件

先行している第一次計画が円滑に実施される。

#### 6. 過去の類似案件の教訓と本事業への適用

マラウイ共和国向け無償資金協力「バラサ-サリマ間国道5号線橋梁架け替え計画(2005年)」の事後評価等において、橋梁の維持管理に係る予算を十分に確保することの重要性、ウガンダ共和国向け無償資金協力「カンパラ市内交通事情改善計画(2005年)」の事後評価等では、実施機関職員の離職が信号機の維持管理上の課題となった点が指摘されている。本事業では第二次現地調査時

において先方政府に維持管理予算の確保を申し入れ同意を得た。信号機に関しては、AGEROUTE は同交差点における既存信号機の管理実績を有している。本事業においては、信号機の保守・管理がスムーズに行われるよう取扱説明書作成及び操作指導を実施する予定。

## 7. 評価結果

本事業は、当国の開発課題・開発政策並びに我が国及び JICA の協力方針・分析に合致し、アビジャン都市交通の円滑化を通じて経済成長の加速化に資するものであり、SDGs ゴール 9「強靱なインフラの構築」及びゴール 11「包摂的、安全、強靱で、持続可能な都市」に貢献すると考えられることから、事業の実施を支援する必要性は高い。

## 8. 今後の評価計画

(1) 今後の評価に用いる指標

4. (1) 及び (2) のとおり。

(2) 今後の評価スケジュール

事後評価 事業完成 3 年後

以 上